



コロナ禍におけるコミュニティ・スクール

コロナ禍、感染防止対策を講じながら「できることは何か」「どうしたらできるか」様々な模索が始まっています。またふれあう機会が少ない中、「温かい心の交流」が大切にされています。

1 生徒の気持ちや願いを学校行事に生かした取組

二学期の主要行事を、今まで通りに開催することが難しい中、楠中学校では、運動会と文化祭の開催について思案されていたとのことです。生徒は実施したい気持ちで一杯です。分かってはいるけれど、やり場のないエネルギーをどこへ向かわせるのか葛藤があったようです。



意を決した生徒会の代表が校長室を訪ね、運動会と文化祭を同日開催でもいいので開催したい。また「生徒が一丸となって運動会と文化祭を全力でやりきろう」というのぼり旗も作成したいとお願いしたようです。校内、学校運営協議会でも生徒の気持ちと、感染防止の両面から協議され、同日開催で半日、参観者数を最小限にする等の対策を講じた上で実施することになりました。当日は、全校生徒が「夢中、熱中、楠中」の言葉通りに活躍し、素晴らしい行事となり、万雷の拍手が贈られたとのことです。縮小版の開催ではあったが、生徒の心には、やり切った充実感がみなぎったことでしょう。

コロナ禍において、行事を中止か、延期か、縮小か、悩みの連続ですが、大切なのは結果よりも、結果に至るまでのプロセスだと思います。今だからこそ学校運営協議会の重要性が再認識されています。子どもを真ん中に「何がベストか」を、皆で知恵を出し合い、実践することにより、充実感と相互の信頼は高まるものと思います。

2 学校運営協議会の皆さんから、ありがたい贈り物

コロナ禍、少しでも感染防止に役立てばと、東岐波小学校に「衛生ボックス」が届けられました。贈呈したのは、東岐波小学校の学校運営協議会有志の皆さんです。捨てたごみからウイルスが拡散しないようにと、蓋付きの箱です。気遣い、思いやりが伝わる衛生ボックスです。



直接ふれあう機会が少なくなった今、船木小学校には「ありがとうの樹」が贈られました。学校運営協議会の長さんからの贈り物です。ありがとうの樹には、子どもたちから感謝の気持ちを伝える沢山のレモンが実りました。レモンには「〇〇さん、・・・してくれてありがとう」という児童同士の交流は勿論、「見守り隊の方へ、いつも私たちのことを見守ってくれてありがとう！」等、様々です。ふれあいが少なくなっても温かい心の交流は広がっています。



コミュニティ・スクールに関する活動情報をお寄せください。HP 更新に活用します。

宇部市教育委員会コミュニティスクール推進課

Tel 0836-37-2780 E-mail : ed-shakai@city.ube.yamaguchi.jp

